



和太鼓部が新型コロナウイルスを乗り越え「優良賞」受賞  
和太鼓部 名誉顧問

今年度の始まりから、和太鼓部は新型コロナウイルスに大きく行く手を阻まれました。大阪は四月下旬から六月下旬まで緊急事態宣言が発出され、部活休止が続きました。新入生の入部勧誘も中途半端に終わり、何とか十数名が入部しましたが、六月末まで一堂に会することもありませんでした。また、二、三年の全国高校総合文化祭(総文祭)への取り組みも中断し、オンラインでの打ち合わせしかできませんでした。六月下旬からはようやく、通常の部活が出来るようになりましたが、すぐ期末テスト期間に入り、全国大会に向けて本格的な練習を再開したのは大会本番まで一か月を切った七月上旬からでした。春からの演奏会がすべてキャンセルされ、長い部活休みで体力も落ち、声も出さず、マスク着用の練習が続いていたため、演奏はこじんまりとして、生き生き感が全くなくなっており、まず、演奏者



の体力回復と演奏表現をすることから始めなければなりません。今年の大会は感染対策を徹底して和歌山県下で行われ、郷土芸能部門の会場は和歌山市内。顧問団は当初、リハーサル日と本番の日の二日だけ、JRで二時間の会場に通うことを考えました。しかし、部員たちは、学校行事が縮小されたり、なくなったりして思い出が少なく、例年のように部員全員での全国大会合宿を望みました。そこで、貝塚市内の府立少年自然の家で合宿し、会場にバスで通うことになりました。

会場が大きなアリーナだったため、フロアでの演奏を二階の観客席から見降ろすという想定で太鼓を配置して練習していましたが、リハーサルで、会場にステージが設営され、フロアの椅子席から見上げる形での奥行きのない平面的な舞台になることが分かりました。急遽、水平に見て奏者が綺麗に並ぶ配置に修正し、奏者の前後の動きの組み合わせも絶妙に見えるよう考え直さなければならなくなりました。リハーサルと本番の間には一日しかなく、集中した練習が必要でしたが、夜も練習できる少年自然の家での合宿が功を奏して、大きな変更ができました。



本番の日。太鼓を搬入し、順路に沿って現地高校生スタッフの誘導に従って徐々に舞台へ近づいていきます。いよいよ舞台上になると直前、三年の数名が握手を求めて力強く手を握ってきました。その笑顔には不安や緊張は見えず、短かったが練習をやるだけやり切った充実感と本番の演奏を楽しむぞという幸福感がありました。舞台袖から見た演奏は、全員の笑顔が輝き、動きもそろって、リズムが響き合い、完全に新型コロナウイルスを乗り越えた姿でした。いつもなら大会最終日に、閉会式があり、そこで審査結果が発表され、上位入賞した校名が順に呼び上げられる度に、それぞれの席から歓声が上がります。壇上で表彰を受けますが、今年の閉会式は中止。審査結果はwebでの発表でした。バスで和歌山から学校に戻って解散前のミーティングをしている時、部員が「もう、発表されていますよ！」と声を上げた。周りの生徒がそのスマホをのぞき込み、声を抑えながら、「あつ、うわっ！」と声を上げそうになりました。見ると、上位入賞の4校の名前があり、本校は3位相当の優良賞の中に取りました。自分たちで一人で作った曲で、1か月弱の厳しい練習時間しかなかったことを思うと、よくぞ入賞できたと感慨も一入。部員も顧問もひとつになって万歳をして喜び合いました。

9月30日(木) 後期生徒会役員選挙が行われました。放送で立候補者が生徒会活動への意欲や思いを訴えました。引き続き、各クラスで投票を行い、選挙管理委員会による厳正な開票作業の結果、全員信任されました。生徒全員が生徒会の構成員です。みんなで新執行部を盛り上げていってほしいと思います。

9月14日(火) から17日(金)の間、自転車交通安全指導を行いました。教員全員の協力のもと、高槻市立第一中学校前から名神高速道路をくぐって本校に至る道や、緑が丘公園から本校に向かう道の道や、緑が丘公園の道路に教員が立つて自転車通学する生徒に声をかけました。交通安全の意識を高め、マナーを守り、地域の方にも愛される芥川生をめざしています。



秋の自転車交通安全指導  
生徒指導部長

後期生徒会執行部が発足  
特別活動指導部長

後期生徒会執行部

- 会長
- 副会長
- 副会長
- 書記
- 書記
- 会計
- 会計

PTA委員総会・PTA実行委員会を開催しました  
総務部PTA係

7月31日(土)、PTA委員総会・PTA実行委員会が開催されました。新委員の皆様よろしくお願ひします。写真は新役員の皆様です。今後とも芥川高校の発展のため、ご協力よろしくお願ひします。



間隔をあけて撮影しています